第８分科会－①
協　議　題　社会の発展に貢献しようとする資質・能力・態度を育む教育活動の推進
研究テーマ　主体的な社会参加を促すキャリア教育の推進

提案者　宮崎県延岡市立緑ヶ丘小学校　校長　長友　紀

１　はじめに

延岡市は，東九州に位置し，九州山地を背に清流五ヶ瀬川が貫流し，日向灘に面した産業と歴史と文化とスポーツが息づく町である。平成１８年に北方町，北浦町，平成１９年に北川町との一市三町合併を経て，九州では二番目に広い面積を有する人口約１２万人の新しい市になった。しかし，少子化・高齢化は全国平均を上回るスピードで進行しており，学校の児童生徒数も年次的な減少によって，今後の学校の活力，児童生徒の将来への影響が懸念されている現状もある。

このような中，延岡市は第６次延岡市長期総合計画で「一人ひとりを大切に育む人づくり」を推進している。特に昨年度は，本市の教育の根幹である「わかあゆ教育プラン」が改訂され，延岡市内の学校教育における目指す子ども像として設定された新たなキーワード「幸動（こうどう）」のもと「ふるさと延岡への愛着と誇り，豊かな心と自己肯定感を土台として，自他の幸せのために学び行動する子どもの育成」を目指している。

２　主題設定の理由

今，学校教育では，「将来の予測が困難で，変化の激しい複雑な社会」を生き抜き，夢や希望をもち，主体的に自分の将来を切り開く子どもの育成をめざしている。そのために，「自己の将来と学ぶことの価値を関連付けながら，社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくこと」ができるよう，特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じたキャリア教育の充実に努めているところである。

特に，社会形成能力は，基礎的・汎用的能力の一つ「人間関係形成能力・社会形成能力」に包含されるものであり，主体的な社会への参画及び今後の社会の積極的な形成を担うものである。

各学校では，社会形成能力を育むための計画的な手立てとして「キャリアパスポート」を活用している。また，手立ての二つ目として，関係機関との連携がある。この「キャリアパスポート」の有効的な活用，及び，関係機関との連携した児童の社会参加への促しが，社会形成能力を育むことに繋がるのではないかと考えた。

まずは，延岡市内の各小学校における「キャリアパスポート」の活用状況，並びに，関係機関との連携の状況を把握し，校長としての学校組織マネジメントはどうあればよいかを明確にすることが重要である。そして，その結果を踏まえ，社会形成能力を育むための「キャリアパスポート」の有効的な活用，及び，関係機関との連携した児童の社会参加への促しの二つの手立てについて，検証することにした。

３　研究の視点

「キャリアパスポート」活用及び関係機関との連携，それぞれの状況に係る市内小学校へのアンケートを実施する。その分析をもとに，校長としてのマネジメント力を発揮する上で，児童の社会形成能力を育成するための必要な視点は何かを明らかにすることとした。

（１）　「キャリアパスポート」活用状況及び 関係機関との連携状況の把握

（２）　実施状況及び各学校の課題からみられる校長の役割と考察

４　研究の実際

（１）　「キャリアパスポート」活用状況及び関係機関との連携状況の把握

「キャリアパスポート」活用及び関係機関との連携，それぞれの状況に係るアンケートを延岡市内全 27 小学校へ実施した。分析を行った結果，以下のような傾向と実態が明らかになった。

①　キャリア教育で育成すべき能力や態度について

キャリア教育で育成すべき能力や態度を特に重点化していない学校は半数以上であったが，このことより全ての視点について取り組んでいることがうかがえる。その中でも「人間関係形成・社会形成能力」については，約 44％の学校が重点化しており，子ども同士を中心としたコミュニケーションづくりなど，各学校の課題に応じて取り組んでいると考えられる。

② キャリア教育に関する研修について

キャリア教育に関する校内研修は，ほとんどの学校で年１回以上実施し，「キャリアパスポート」に関する内容が多かった。内容に関しては，記録の仕方や累積の方法等の確認に留まる学校が多く，今後，「キャリアパスポート」活用の効果を高めるための研修を行っていく必要がある。活用について研修を行っている学校では，教育相談やキャリアカウンセリング等を対話的に行い，次の新たな課題が発見できるようにしたり，自己肯定感を高めたりできるように活用している学校もあった。

③ 関係機関と連携した学習について

関係機関と連携した学習は高学年の総合的な学習の時間が多いが，教科，領域外の活動であっても，各学校で特色に応じて工夫しながら実施されていた。一方，関係機関との連携実施を検討する際，事前調整の煩雑さから学級担任が敬遠しがちであるという回答が多く見られた。また，単発の体験になり，学年や学校の目標との関連が明確になっていないまま実施される傾向も見られた。このことから，学校の教育目標に基づく学年の系統性やそれぞれの取組の関連性を明確にし，年間の見通しをもって実施することの重要性を感じている校長が多数いることも分かった。

④ 学校経営との関連について

キャリア教育を進める上で，学校経営上どのような工夫が必要かについては以下のような意見が見られた。

ア 児童によりよくキャリア発達を促すためには，よりよいキャリア（職業・技能上の経験，経歴）との出会いが必要である。学校は，それを仕組んでいく必要がある。したがって，学校においては，学校経営ビジョンに明確な位置付けを行い，校務分掌の工夫及び教科横断的な全体計画を作成し，継続的に改善を加えながら実施する必要がある。効果的な実施にするには，地域人材活用が必要不可欠であり，地域や関係機関との関係づくりが重要なポイントである。

イ 日常の学習の中では，グループ活動や話合い活動を積極的に取り入れ，主体的・対話的な学びが充実できるようにし，基本的なコミュニケーション能力を培い，人権感覚が身に付けられ，自己肯定感も育まれるようにする。その際，教師は教えすぎないように，児童自らが考えて実践できるようにすることが望ましい。

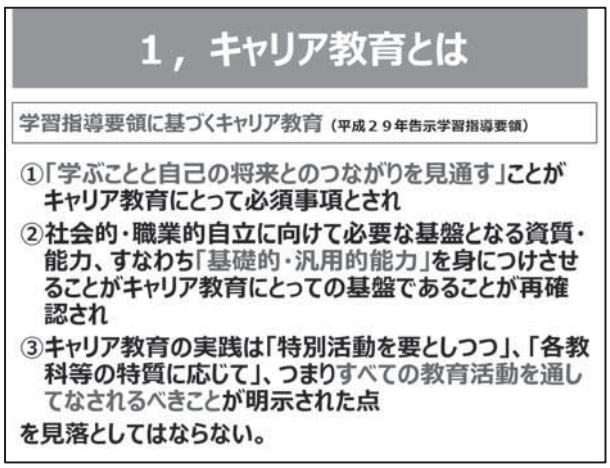
ウ 取組を校内掲示やホームページ，学校便り等で紹介するなど，可視化することで次への気付きが生まれ，次への課題設定や新たな活動につながる。

（２） 実践事例及び各学校の課題からみられる校長の役割と考察

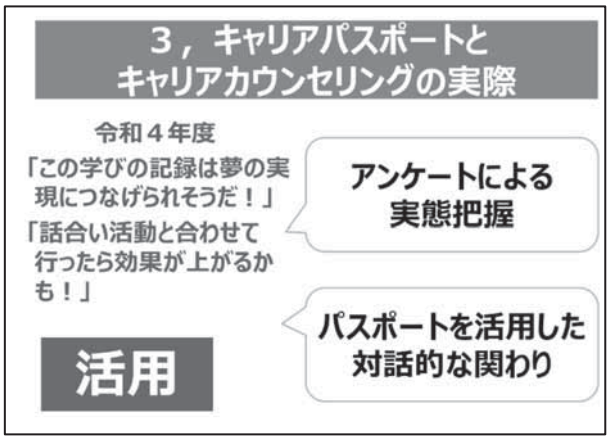
「キャリアパスポート」の活用や関係機関との連携について，各学校の具体的な実践事例をもとに，校長の役割について考えた。

① 校内研修の実施

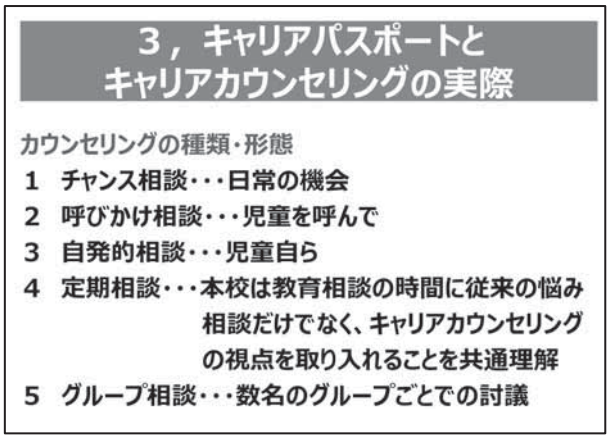
年度初めにキャリア教教育研修を実施し，目的や共通実践の確認を行った。



【校内研修資料の一部　①】



【校内研修資料の一部　②】



【校内研修資料の一部　③】

このように，明確な目標と具体的な共通実践を理解した上で教育活動を行うことができたことが，キャリアパスポート活用の効果を高めることにもつながったと考える。

② 実態把握

共通実践を進めるにあたり，基礎的・汎用的能力について以下のような児童に実態調査を行い，児童がどのように自己理解をしているのか調査を行い，児童理解に生かした。

調査の結果，キャリア教育が目指す基礎的・汎用的能力の中でも，特に低学年のうちに力を入れたいのが，人間関係形成・社会形成能力だということが実態として現れた。高学年になるほど課題対応能力やキャリアプランニング能力に課題を感じている児童が多い結果になった。

アンケート【集計結果】＊キャリア教育

基礎的・汎用的能力に応じた児童意識調査を実施、下記の要領で数値化した。

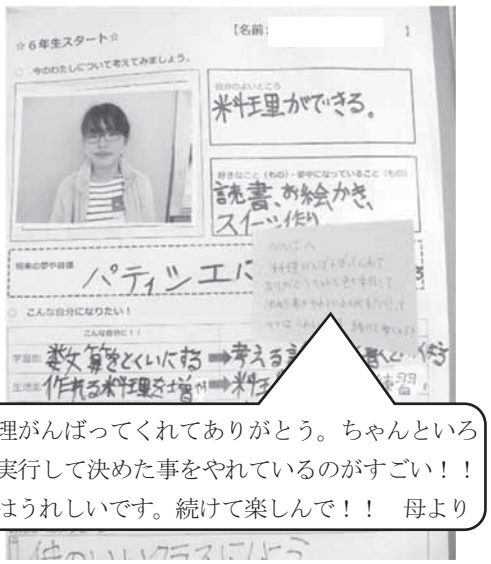
4：いつもしている　3：時々している　2：あまりしていない　1：ほとんどしていない

＊質問項目1~3「人間関係形成・社会形成能力」 4~6「自己理解・自己管理能力」7~9「課題対応能力」 10~12「キャリアプランニング能力」	2年	3年	4年	5年	6年	全校
1　友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受けとめようとしていますか。	2.8	2.9	3.4	3.2	3.3	3.1
2　相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。	2.9	3	3.5	3.1	3.3	3.2
3　自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。	2.8	2.9	3.3	3.1	3.2	3.1
4　自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしていますか。	3	2.8	3	2.8	2.8	2.9
5　気持ちがしずんでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。	3.4	3.1	3.4	3	3.2	3.2
6　不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。	3.3	3.3	3.6	3	3.1	3.2

【キャリア教育アンケート（集計結果一覧）】

③ 「キャリアパスポート」の活用事例

教育課程に児童との教育相談を位置付けている。生徒指導上の相談だけではなく，一人一人の目標を確認したり，児童を認め励ます言葉かけを行ったりすることを共通理解して進めた。また，児童には相談したい時にいつでも誰にでもキャリアカウンセリングができることを伝えている。その際にキャリアパスポートを活用することにした。また，保護者面談時にキャリアパスポートを提示しながらそれぞれのよさや夢などを話し合うこともできた。家庭での子どもへの言葉かけにも繋がっていたようだ。このように，児童が新たな課題を発見したり自己肯定感を高めたりできるような効果的な活用の仕方になるように工夫した。



【保護者からの言葉かけの一例】

④ 関係機関との連携の実践事例

各学校，様々な関係機関と連携している。その中でも，延岡市キャリア教育センターは，学校のニーズに応じた人材を紹介し学校のキャリア教育の充実に向けた協力機関である。以下は５名の講師を迎えて行ったキャリア教育講演会の計画案である。地元企業家，商店経営者，地域興し隊の方，スポーツ指導者，菓子職人の講師を迎え，仕事に対する思いや大事にしていること，生き方などを聞いた児童は，その話の中から自分たちが学校で学んでいることと結びつけて自分自身が大切にしたいことを考えていたようだ。

「キャリア教育講演会」計画案

令和４年８月３０日

１目的

○　延岡にお住まいで様々な分野で活躍されている方に、それぞれの専門分野でこれまで苦労された体験やその仕事の楽しさややりがいなどを話していただくことにより、児童に様々な職業への興味・関心をもたせ、将来の夢や希望に向かって今できることに取り組もうとする態度を育てる。

２　日時

○　令和４年１１月２日(水)　９：３０～１２：０５（２～４校時）【総合的な学習の時間３時間】

３　対象学年

○４・５・６年（約１１５名）

４　場所

○　４・５・６年教室

理科室・いちょう１教室

５　講師

【本年度の講師依頼について】

○延岡市キャリア教育支援センターへ依頼する。６名選定していただく

【講師選定までの流れについて】

○キャリア教育支援センターへ講師選定依頼【９月上旬】

○講師決定後、各クラスの担任でアンケートをもとに人数調整

＊アンケートは担当が準備

＊1クラス1講師に対して同じ人数

例）３５人学級の場合６名の講師なので５～６名ずつになるようにする。【講師決定後】

６　講演会の流れ（案）

⑴	日程説明	９：３０～９：４０	学級担任より
⑵	各学級へ移動	９：４０～９：４５	
⑶	講演会	９：４５～１０：０５	
	講演会①	９：４５～１０：０５	
	質問	１０：０５～１０：１５	
	各教室へ移動	１０：１５～１０：２５	
	講演会②	１０：２５～１０：４５	
	質問	１０：４５～１０：５５	
⑷	お礼の言葉	１０：５５～１１：００	６年代表児童（各教室で）
⑸	教室へ移動	１１：００～１１：０５	
⑹	事後指導	１１：０５～１１：１０	

【キャリア教育講演会の計画案】

【キャリア教育講演会の様子】

延岡市では，教育委員会学校教育課が主催している「子どもたちに伝えたいこと」の事業も行われている。各分野で活躍されている地域の講師から仕事の話を聞いたりできる貴重な体験になっている。延岡市の小学校のおよそ 63 パーセントの学校がこの事業を活用している。

【講師による薬剤師体験ワークショップ】

⑤　校長の役割と考察

キャリアパスポートの活用及び関係機関との連携に当たり，キャリア教育について改めて職員研修を行い，共通理解を再度図った学校が多く見られた。共通理解を深めたことにより，キャリアパスポートの活用では，児童の意欲を喚起したり，次の活動への意欲向上に繋げたりなど，積極的な活用が見られるようになった。記録的な活用から，今後の見通しがもてる目的を明確にした活用をするなどの工夫にもつながっていった。また，関係機関との連携でも，目的を明確にして，他の教育活動との関連を意識した活動ができるようになり，効果的な学習に繋がった。

キャリア教育について校長自身が見つめ直し，様々な教育活動を組織的・系統的に整理できるように，的確な指導と助言が展開されることが大切である。また，社会形成能力は，人間関係形成能力と表裏一体となるので，他の基礎的・汎用的能力との関連を測りながら，意図的に取り組む必要があることも分かった。さらに，この能力は，社会との関わりの中で生活し仕事をしていく上で，基礎となる能力でもあり，主体的社会参加を可能にする能力でもある。つまり，社会参加には，他者と認め合い，そのよさをうまく活かし，協力しながら，付き合っていく力とともに，社会に参画しようとする意欲を高める必要であることも分かった。

5　成果と課題

（1）　成果

①　キャリア教育に関するアンケートで本市における実態を把握し，実践事例を検証したことで，校長としてキャリア教育に取り組む際の課題を明確にすることができた。

②　学校教育目標との関連を明確にしたキャリア教育を組織的，計画的に進める中で，キャリアパスポートの活用や関係機関との連携を工夫していくことが重要であることが分かった。

③　キャリアパスポートの記録的な活用から目的に応じた活用に転換を図ることで，児童が主体的に自分自身を振り返るような活動につなげることができた。

④　関係機関との連携を図り，学習活動を展開することが児童の自己肯定感を醸成し，主体的に社会参加をしていこうという意欲に繋がることが分かった。

（2）課題

①　キャリア教育に関するアンケート結果や各学校の取組を参考にして，学校の状況に応じた活動を工夫していく必要がある。

②　キャリア教育の視点で全教育活動を組織的・系統的に整理し，計画的に進められるように見直していくことが必要である。

③　職員の指導力向上と組織的な取組を目指し，キャリア教育担当を中心に研修等を計画的に実施していく。学び合える組織づくりに向け校長としての助言やアプローチの仕方を具体的に検討していく必要がある。

6　おわりに

今回，キャリアパスポートの活用及び関係機関との連携を通した社会形成能力の育成という視点から，校長のマネジメントについて研究してきた。総合的・客観的に判断しながら，組織的な取組に向けてリーダーシップを発揮していく役割が管理職とりわけ校長には必要である。今回，その具体的な助言等検証してきたが，さらに具体的なアプローチにまで十分迫ることができなかった点は今後の課題である。

キャリアパスポートの活用及び関係機関との連携を図ることが，より一層のキャリア教育の充実を図り，児童における将来の自己実現に向けてのよりよいサポートになるのではと考える。